

# 令和 7 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	58	学 校 名	県立取手第一高等学校				課 程	全日制		学校長名	高野 健二					
教頭名	村松 則善								事務(室)長名	片野 良教						
教職員数	教諭	52	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手	5	事務職員	5	技術職員等	5	計	74
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	総合学科	118	122	103	131	110	121			331	374	18				
	科															
	科															

## 2 目指す学校像

<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の校訓（至誠・醇厚・自彊）の精神を礎に、取一精神「力耕不吾欺」の涵養を図りながら、生徒が自ら学び考える力を育み、時代の変化に敏感に対応し、国際社会・高度情報化社会に適応できる能力の育成に努める。</li> <li>総合学科の特色を活かしたキャリア教育の充実と主体的な学びの実践による多様な進路希望の実現を目指し、人間性豊かで活力のある人間育成に努める。</li> </ul>
--

## 3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	<ol style="list-style-type: none"> <li>本校の校訓（至誠・醇厚・自彊）の精神を礎に、取手一高精神「力耕不吾欺（りきこうわれをあざむかず）」を実践できる人材</li> <li>主体的に学び、時代の変化やグローバル社会・高度情報化社会に対応できる人材</li> <li>豊かな人間性を持ち、主体的に社会に貢献できる人材</li> </ol>
---------------------------------------	---

別紙様式 1 (高)

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>① 総合学科の特色を生かし、「産業社会と人間」の授業を核とした横断的・総合的な学習及び地域と連携した学習の実施によるキャリア教育の充実</p> <p>② 充実した情報教育と国際理解教育による、グローバル社会に対応できる人材の育成</p> <p>③ 生徒の多様な進路希望に対応した教育課程による、就職から大学進学までの幅広い進路希望の実現</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>① 主体的に学び、自分の進路実現を目指し、地道に努力できる生徒</p> <p>② 自らのスキルアップを目指し、多様な資格取得に向けて努力できる生徒</p> <p>③ 豊かに人間性を持ち積極的に奉仕活動に取り組める生徒</p> <p>④ 自己理解に努め、総合学科のそれぞれの分野に興味を持ち、深く探究しようとする意欲のある生徒</p>

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>電子黒板、学習端末等 ICT 機器の活用が浸透し、対話的な学びとなる授業が展開されている。また、探究活動により課題発見、解決する能力等が育っておりプレゼンテーション能力に向上が見られる。学習評価を意識した授業改善が進んでいるが、主体的に学ぶ姿勢、基礎学力の定着という点では課題が残る。</p>	<p>生徒が自ら課題を見つけ、学ぶ習慣を確立する。主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行い、BYOD 端末を活用して生徒自身が自らの学びを振り返る機会を設け、個別最適な学びとなるように工夫する。</p>
進路指導	<p>総合学科として生徒が身につけた様々な資質・能力及び資格を活かし、推薦入試や総合型選抜を利用しての進学者が増加している。年次や教科を超えた小論文・面接などの指導体制、支援体制に弱含みを残している。</p>	<p>3年間を見越した一貫性のある指導体制の構築が必要である。推薦入試や総合型選抜を見越した早期からの指導と併せ、一般入試で合格できる学力を身につけさせる必要がある。</p>

別紙様式 1 (高)

生徒指導	学校全体として生徒は落ち着いて生活できている。一部改善できていない者もいるが、身だしなみ、ルールやマナーの遵守、生活習慣についても多くの生徒が身につけている。心因的な理由による欠席や心の悩みを持つ生徒が増加し、スクールカウンセラーによるサポートを受ける生徒が多い。不登校となりオンラインによる授業を受講した生徒が複数いた。	教育相談体制を充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対応をする。自分自身の行動について見つめ、考えることのできる自己指導能力を育成する必要がある。
特別活動	生徒会活動も活発になっている。生徒会が主導して購買復活にこぎつけた。学校行事の多くが生徒主体で運営できている。ボランティア活動に自主的に参加する生徒が多い。部活動は、運動部文化部ともに活発に活動しており、新しい活動方針を遵守して活動するように努めている。	生徒会活動においては、生徒の自発的な活動を促し、自ら企画・運営する能力を養う必要がある。部活動においては、新しい活動方針に則した効率的な練習方法を確立しサステナブルな活動としていく必要がある。
働き方改革	会議のペーパーレス化や教職員ポータルを設置により職員会議や懲戒の時間は短縮された。定時退勤日の設置や時差出勤の活用等である程度勤務時間外在校時間は減らすことができているが、校務分掌業務、教材研究、部活動指導などで勤務時間外在校時間が長い職員も未だ少なくない。	一部の校務分掌に業務が集中しないよう業務の平準化を図り、各分掌における係分担についても見直しが必要である。また、部活動指導については、顧問のワークライフバランスを確保しつつも、生徒のニーズに対応した適切な顧問配置をする。

5 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科の特色を活かし、「産業社会と人間」の授業を通してキャリア教育の充実を図り、「総合的な探究の時間」等で身近なところに課題意識をもち、問題解決を図ろうとする態度の育成を図る。</li> <li>・部活動、生徒会活動、ボランティア活動の活性化を図り、豊かな心で相手を思いやり、互いに個性を認めあえる人間関係の育成を図る。</li> </ul>
--

<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育と国際理解教育の充実を図り、グローバル社会に対応できる人材の育成を目指す。</li> <li>・校務分掌、委員会等の仕事内容を再編・整理し、会議の簡略化を図ることによって、効率の良い働き方を目指す。</li> </ul>
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
主体的な学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間や各教科における探究的内容を通して、生徒自ら課題を発見・設定し、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけさせる。自ら学習を計画し取り組みるように支援する。</li> </ul>
進路希望の実現と総合学科の特徴を生かした進路指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科の特色を活かし、生徒の興味関心を軸とし、3年間を見通した段階的な進路指導体制の構築と、進路実現のための個別面談を適時適切に実施する。</li> <li>・推薦入試や総合型選抜を見据えた早期からの小論文・面接指導に加え、課外や模擬試験を活用し、一般入試にも耐えうる基礎学力の向上を図る。</li> </ul>
豊かな心を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立を目指しつつ、様々な教育活動の中で人権を意識させ、生徒自ら他者や社会問題について考える機会を創出する。</li> <li>・様々な状況に適応できる自己指導能力を育成するとともに、教育相談体制を一層充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対応に努める。</li> <li>・生徒の実態（不登校・特別支援・不応等）に応じた支援についてチームで考え、年次、生徒指導部、教育相談部及び外部機関等関係者の連携を密にして生徒の課題解決を援助する。</li> </ul>
メタ認知能力の育成及び生徒の主体的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の活動を振り返り、自身の変容や成長を客観的に自己評価できるようにする。</li> <li>・生徒自らが課題を見つけ、問題解決できるよう生徒の自発的な活動をサポートする。</li> <li>・部活動や学校行事も含めたすべての活動において、生徒の主体的な参加を促し、学校生活の活性化を図る。</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>• ICT 機器を活用し、効率的に職務を遂行することによって、教職員の事務的な仕事量を減らし、生徒とかかわる時間や自己研鑽の時間を増やす。</li><li>• 教材の共有化・ライブラリー化を進める。</li><li>• 部活動においては、短時間で効率的な練習計画を立て、実践する。</li></ul>
評価手法の研究と授業改善を通じた確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"><li>• 授業改善推進プロジェクトを通して、主体的、対話的で深い学びの視点から、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業を研究し実践する。</li><li>• ユニバーサルデザインの視点に立った全ての生徒にとって学びの多い授業の展開を実践する。</li><li>• 観点別評価方法については、不断に見直し、評価を今後の授業改善やより効果的な指導法に活かせるようにする。</li><li>• 生徒による授業評価における授業満足度の平均値 3.3 以上となるように努める。</li></ul>